

相模女子大学紀要 第八九号（二〇二五年度）

行田市郷土博物館所蔵原田大観『中国旅行日誌』

下田章平

二〇二六年三月一日 発行

行田市郷土博物館所蔵原田大観『中国旅行日誌』

下田 章 平

はじめに

原田大観（二代目庄左衛門、一八五五—一九三八）は明治末期以後、コロタイプ美術出版、美術商として名を馳せた博文堂^①の実質的経営者である。博文堂は明治二年（一八六九）、原田大観によりその出身地である武州忍^{おし}県（現在の埼玉県行田市）^{ぎょうた}に出版社を開業、その後東京に移転し、幾多の変遷を経て、明治三四年（一九〇一）五月に廃業、明治四〇年代（一九〇七—一九二二）になって大阪に移転し、コロタイプ美術出版、また中国書画碑帖の販売によって博文堂の再興を果たしたという。大阪移転後は、東京での廃業のためか、法人登記上は原田大観の子息が交替で博文堂の代表社員を務めた。油谷博文堂、博文堂合資会社、博文堂と三度にわたり商号を変え、大正十一年（一九二二）以後、博文堂は大阪と東京の二拠点体制を整備して経営拡大を目指したが、翌年の関東大震災によって関東での基盤を失い、経営的に大打撃を蒙った^③。

原田大観『中国旅行日誌』^②は、まさに関東大震災直後の訪中日誌である。本資料は原田大観の五男の原田悟朗（一八九三—一九八〇）家が所蔵した膨大な博文堂関連資料中のものであり、現在は行田市郷土博物館が所蔵する。縦一六・一センチ、横一〇センチ、全一二頁の小型のノートに記されており、四七頁から七七頁、八一頁から一二頁には何も記さ

れていない。最初に訪中の日誌、そして七八頁以後に出納記録が記されている。当初は鉛筆、一〇月二五日以後の日誌は万年筆、出納記録の部分は毛筆で筆記されている。行田市郷土博物館編『行田市郷土博物館収蔵資料目録 原田庄左衛門家資料目録』（以下『目録』。同館、二〇二一）ではI群に分類されている。その「解題」（八頁）には、「Iは中国出張に関する記録類が含まれた資料群。大正12年の中国出張時に綴った日誌は原田悟朗の現地における行動を知る上で注目される。」とあるが、内容や筆跡によって「原田悟朗」は原田大観の誤記であると考えられる。大正十二年（一九二三）、原田大観は少なくとも二度訪中し、第一次訪中（六月八日から七月八日まで）では予備調査を兼ねて原田興家^{おきえ}（原田大観の四男、一八九一—？）を同行させ、第二次訪中（一〇月二一日から十一月八日まで）では、関東大震災（同年九月一日）の発生により一箇月延期して訪問している。前者の記録は一部の書簡資料中（上掲目録のB群）や本資料の出納記録に断片的にしか見られないが、後者の記録は本資料により詳細に窺うことができる。

つづいて、本資料の資料的価値について、前稿^④をもとに確認しておきたい。この二度の訪中は、博文堂の出版活動と書画周旋において劃期をなすものであった。すなわち、博文堂が中国の書肆であった富晋書社、延光室と業務提携をすることにより、博文堂のコロタイプ出版物が中国へ輸出

され、中国大陆において博文堂という書肆の名が喧伝されるようになった。
また、中国書画碑帖の名品の獲得と販売によって、関東大震災後の博文堂の再建資金を獲得し、最も中国書画碑帖の名品を持つ清の帝室に近侍する遺臣の信頼や、新たに現地に協力者を得た。そして、この訪中以後に博文堂はさらに多くの書画の名品を獲得し、中国書画市場を席捲していくことになった。

このように、本資料は博文堂の大正中葉以後の書画碑帖の周旋活動が明らかになるばかりではなく、延いては日本への中国書画碑帖の流入の実態解明にもつながる近代書画碑帖収蔵史上の重要資料と考えられるため、以下で全文を翻刻して示しておきたい。なお、翻刻にあたり、年月日をゴシックとし、表記に関しては常用字体のあるものはそれに従い、改行は「」で示した。「」には注記のほかに、稿者が補足した語句、「」には原文の割注を示した。

原田大観『中国旅行日誌』翻刻

〔表紙〕

〔以下印字〕NOTE BOOK / "MOON OR NO MOON WE CARRY ON" /
"TRADE JUMP MARK"

〔1頁〕

大正十二年（一九二三）十月廿一日前日之雨晴れ好天気

一 午前六時廿分大阪〔博文堂〕本店出発天津へ向フ

一 梅田駅迄近藤威左夫氏〔博文堂従業員〕見送りニ参りくれ候

一 梅田駅今〔西中〕繁一〔博文堂従業員〕同車三ノ宮二下車神戸郵船／

会社支店乗客所へ参り九時之ランチニテ／長沙丸特等三号室へ乗船ス

一 九時半之ランチニテ〔原田〕興家殿花屋敷〔博文堂本邸、松茂山荘〕

より生花／沢山持参致しくれ室内へさし船長／氏へ分与ス

一 特等船客自分共五名（乳呑子鈴木和一氏／夫婦憐〔隣〕室）

一 海上実二平穩

〔2頁〕

一 長沙丸船長及〔宮本〕事務長其他各員久々ニテ／面会懇切ニ致しけれ
られ自宅ニ居り／候と同様之心持ち致し候難有事／無限夜中も充分熟
睡致し候

〔十月〕廿二日晴天

一 午前九時廿分門司市入港直ニ上陸／明石〔幸橋〕氏と毛里氏へ土産物
持参詣明石〔幸橋〕氏／ハ出勤不在妻君ニ面会ス

一 毛里氏上京中妻君ニ面会／午後一時長沙丸ニ戻ル行違ひニ明石〔幸橋〕
／氏代理答礼ニ相見へ候よし

一 旧十三夜の明月ヲ玄界灘尔〔に〕て拝し

〔3頁〕

申候一天雲なし実ニ無上の難有事ト／喜び申候／

一 本日午前門司着之節大阪〔博文堂〕本店ト東京／〔原田〕耕三殿方ト
弥々午後二時船出帆之節／岡原敏子殿へ何レモ端書出ス

一 不思議海上平穩ニ候

〔十月〕廿三日晴天海上実ニ静カニシテ春の日の如／き暖気ニ候／午後六
時頃ヨリ俄ニ曇り風起り夕食後／何レモ部屋這入り伏セリ申候夜中ヨリ黄
海〔欄外に、（午後三時頃／〔博文堂〕本店へ打電ス／海上無事の）〕と
あり

〔十月〕廿四日黄海風強ク特等室食事ニ出ルモ／ノ無之

〔4頁〕

午後二時四十分〔原田〕興家ト〔原田〕悟朗ヨリ／各別ツ／ニ無線電信
着誠ニ喜／び申候

〔十月〕廿五日晴天昨夜ヨリ寒気強ク遂ニ冬服ヲ出シ／着用致し候海上大
イニ平穩／商船会社之絵葉書ニテ船中ヨリ明日天津／着之予定之葉書出シ

候／大阪〔博文堂〕本店、油谷達 原田耕三 金平貞子／田代精一郎 岡原弘之 岡原〔道子／民江〕／荒尾慶盈／右長沙丸船中ニテ投函／

〔十月〕廿六日晴天 一天雲なし暖気

〔5頁〕

一 午前九時天津へ無事着波止場へ呉天民氏ト／王氏常盤ホテルノ岸沢氏出迎ひ万事／相頼ミ呉〔天民〕氏及び王氏同車（自働車）ニテ午前／十時常盤ホテルニ着ス

一 西中繁一ヨリ封書着誠ニ嬉しく候

一 中根斎〔齊〕氏訪問午飯ハ共ニス

一 午後羅〔振玉〕大人訪問小川簡斎〔為次郎〕氏之依頼之／金百円也之進呈其他長尾雨山氏ヨリ／之趙〔張〕旭之卷四卷〔自言帖〕の影印か／届ケ山本悌二郎〔二峯〕氏／ヨリ黄大痴〔公望〕之卷頼ミ置ク也

一 上野寿氏へ預り書画全部面会之上御戻／し仕置候

〔6頁〕

一 楠〔正一〕氏訪問〔原田〕興家殿ヨリ之届ケ物與サン／ニ相渡し置候楠〔正一〕氏親族之仏參ニテ不參大喜び

一 呉天民氏王氏へ答礼ニ參ル不在

一 夕刻不斗戸部主人当ホテルニ同宿訪問同〔戸部〕氏／ハ今晚汽車ニテ濟南へ出張之よし多分斎／藤氏ト面会之よし

一 夜中不斗大内暢三氏当旅館ニ着初メテ／面会桑田尽〔豊〕藏之件其他ニテ十二時迄／談話ス夜一時頃伏セル

〔十月〕廿七日晴天

一 午前九時中根〔齊〕氏訪問被下候／々〔同〕九時十五分〔原田〕興家。〔原田〕悟朗兩人ヨリ封書着

〔7頁〕

午後ヨリ中根〔齊〕氏ト共ニ仏租界前老／萊街〔胡同名〕湯定之〔滌〕顧

鼈〔鰲〕号巨六氏書画見て／參ル北京ヨリ紹介ニ参り居り夕刻迄見ル名品／更ニ無之当夏中根〔齊〕氏鑪一桂巻送り参り／候関係上

一 〔原田〕興家〔原田〕悟朗兩名ニテ端書ニテ返書出ス

一 夕刻帰館兩度迄楠〔正一〕氏訪問被下面会ス

〔欄外に、〕羅〔振玉〕先生今／預り候三卷／長沙丸之／宮本事務／長ニ依頼ス〕とあり

〔十月〕廿八日晴天

一 午前九時十分発ニテ北京ニ參ル汽車中天津朝／鮮銀行支店支配人冷牟田清氏夫妻三歳の／女子〔冷牟田和子〕同伴同車不知／北京へ正午過着直ニ／同氏〔冷牟田清〕も扶桑館ニ付自働車ニ同乗○時四十五

〔8頁〕

一 分扶桑館ニ安着ス

一 午飯後芳沢〔謙吉〕公使訪問夫妻共不在ニ付／土産全部老女中ニ預ケ置き戻ル

一 劉驥業氏訪問土産品ハ四王吳惲／毫冊ト古ル布〔コルク〕か〕箱入り持參ス兼テ桑田〔豊藏〕氏ヲ以／預り之董其昌書幅張平山人物幅／硯二面陶器箱入り戻ス

一 夕刻帰館食事ヲ致ス心得之処へ芳沢〔謙吉〕／氏ヨリ電話ニ付早速參館久々ニテ令夫人〔芳沢操〕ニ／拜顔〔芳沢〔謙吉〕公使ハ不在〕桑田〔豊藏〕氏病死之物語／りと東京大養〔木堂〕御夫妻ヨリ之御伝言及／〔関東大〕震災之御物語り致し夕食之御饗応

〔9頁〕

一 二預り夜十時過帰館致し候土産物非常／ニ御喜び被下是非公使館内之日本間も有之／候ニ付引移ル様其他何ニカラ何ニ迄御深切／ニ被仰下候

〔十月〕廿九日晴天

一 早朝ヨリ出掛ケ候準備中突然自分着京之／新聞記事ヲ見三菱公司參事

- 市吉徴夫氏／訪問ニ付面会致し候処桑田尽〔豊〕蔵氏友人ニテ／桑田〔豊蔵〕氏之為メニ非常ニ御悦び被下感謝／ヲ受ケ申候
- 一 当地桑田〔豊蔵〕氏旧宅之永持徳一氏〔英語之先生〕／来訪市吉〔徴夫〕氏同様深ク感謝被致候

〔10頁〕

- 一 劉驥業氏答礼ニ被参本日午後四時四十分／陳〔宝琛〕大人へ訪問之御約束ス不相変深切ニ／御紹介被下候
- 一 午後二時四十五分陳宝琛大人訪問中根／齋〔齊〕氏同乗〔馬車〕土産ニ画中九友〔集冊、一九二二〕及四宝〔一字アキ〕ト古ルぶ〔コルク〕カ箱入り持参〔陳宝琛〕大人大喜び御預り／之趙之謙幅戻ス少時間談話〔陳宝琛〕大人も／本日午後四時の前約アリ他日ヲ約シ戻ル同所ヨリ劉〔驥業〕先生別之馬車ル〔に〕て林肇〔長〕／民氏訪問ス〔中根〕〔齊〕氏ハ林〔長民〕先生ヨリ／帰ル〔に〕
- 一 本日劉〔驥業〕先生ヨリ天津ニ居ル林長民氏

〔11頁〕

- 住所相分り電話掛ケ談話ス
- 一 日没頃金紹城〔城〕先生ヲ劉〔驥業〕先生ト共ニ／相尋子〔ネ〕同氏筆之軸預リヲ戻ス同〔金城〕先生邸／内之菊花沢山ト不相変室内之美麗二者〔ハ〕／肝〔感〕心致し候十一月三日午後七時ヨリ之招待／ヲ受ケ快諾致シ夜ニ入り戻ル

〔十月〕三十日晴天

- 一 午前九時今西〔龍〕博士訪問内藤〔湖南〕博士之御〔書〕状ヲ／届ケル
- 一 寺沢鹿之助氏ヲ尋子〔ネ〕ル
- 一 貴志吉之助氏ヲ訪問ス御家内ヨリモ叮嚀なる／挨拶有之候

〔12頁〕

- 一 午前十一時過ぎニ貴志〔吉之助〕氏ト中根〔齊〕氏同伴／陸哀〔字は慎斎〕氏訪問書画一覽名品なし／一点文殊菩薩の仏画有之元画ト鑑定ス

- 一 古歛閣へ参り書画一覽ス名品皆無之候
- 一 午後四時過ぎ富晋書社訪問主人不在第二面会／荷物安着之よし安心ス
- 一 帰館後初メテ入湯ス
- 一 夜ニ入り寺沢〔鹿之助〕氏相見ヘ十時半帰ル
- 一 天津ヲ経テ大阪ヨリ村井弦斎氏之封書／入ル着〔博文堂〕本店ヨリ〔欄外に、〕夕刻〔博文堂〕本店へ／返書出スとあり
- 〔十月〕三十一日雨降り午前十時頃ヨリ天気ニなる／天朝〔長〕節ヲ奉祝

〔13頁〕

- 一 午前八時半ヨリ中齋〔中根齊〕氏同伴黄濬源氏ヲ／訪問書画数点一覽ス
- 一 夫ヨリ琉璃廠之骨董商三軒へ立寄り／数点書画ヲ見ル名品なし
- 一 午前十一時半之前約ニ付顔世清氏訪問実ニ邸／宅及室内之善美ニハ感服いたし候／幸ひ日本の支那公使館ニ居り候朱紹濂氏参り／居り日本語ニテ通訳不相変中根〔齊〕氏之通訳／ニテ好都合目的之名巻一覽ス十一月二日正午／ニ招待サル其節幅類見セルト約束有之右ヲ／拝見之上商談ニ掛ル積リ午後三時過帰ル
- 一 帰途謙祥益記〔大呉服革店〕ニ立寄り毛革ヲ見ル

〔14頁〕

- 一 一端扶桑館ニ戻り中根〔齊〕氏ト分れ王国維／先生ヲ遠方迄尋子〔ネ〕候処不在
- 一 永持徳一氏へ答礼ニ立寄ル〔桑田〕〔豊蔵〕氏旧宅
- 一 日没戻り直ニ阿部房次郎氏へ封書出ス
- 一 〔原田〕興家殿ヨリ封書着ス直ニ返事出ス
- 一 菊池栄氏不在中訪問之ヨシ承ル

一夜二入り東京高等師範〔学校〕教授内野台嶺先生／（長沙丸ニテ同船人）訪問被下候

一夜二入り写真師〔四字アキ、〔岩田秀則〕の脱字〕氏訪問被下候

中根〔齊〕氏夜行ニテ天津行キ

〔欄外に、〔夜二入り〕金紹城氏／劉驥業氏／ト十一月三日之／招待状参ル〕とあり

十一月一日晴天

一 三菱公司へ市吉〔徴夫〕氏訪問不在夫ヨリ同社

〔15頁〕

内之内野台嶺氏へ答礼ニ立ヨル

一 今西〔龍〕博士訪問支那語之教師参り少時相待／ち面会内藤〔湖南〕

先生分預り参り候書物ヲ／届ケル午後人力車ヲ以同〔今西龍〕博士へ

内藤〔湖南〕博士／へ御送り之本受取ニ遣ス

一 岩田〔秀則〕写真師ニ立ヨル不在妻君ニ面会ス

一 菊池栄氏へ立ヨル不在妻君ニ面会ス

一 理髪所へ参ル

一 帰途芳沢〔操〕令夫人ニ面会ス

一 午後一時帰館午饭ス

一 修済煦氏訪問書譜見本持参拾部／買入れ約束ス

〔16頁〕

一 林肇〔長〕民氏来訪

一 夕刻当族〔旅〕館ニ滞在之岡田正之博士ニ／面会〔之〕段ニ御話し承り候処西村天囚先生／等時代之御方ニテ孔侍楼〔孔侍中帖〕原本／御珍藏之博士ニテ富山市之御出生／之趣キ誠ニ温和之真ニ敬服之先生ニ／御座候

一 夜二入り岩田〔秀則〕写真師昨日来朝之田中／三郎氏同伴数時間話し中〔本来次条に接続力〕

一 今西〔龍〕博士答礼ニ御出被下候

一 中根〔齊〕氏天津ヨリ洋服受取御届ケ被下候

〔十一月〕二日晴天

〔17頁〕

一 同仁病院の山内国手〔医師〕之家ニ大内暢三氏／着京之よしニ付尋子

〔ネ〕参ル〔芳沢謙吉〕公使へ被参不在

一 扶桑館へ大内〔暢三〕氏訪問面会ス

一 中根〔齊〕氏ト共ニ顔世清氏へ正午の招待ニ参り／名卷名冊一覽其内

朱〔紹濂〕先生相見へ四名／ニテ叮嚀なる馳走ニ相成家庭料理ハ実ニ

／結構ニ候食後中根〔齊〕氏ハ一寸他参ラレ／朱〔紹濂〕氏之通訳ニ

テ目的四点相談阿部〔房次郎〕の差直〔値〕ニハ負ケ不申六万元迄ト

申シ候ニ付午後／五時帰館直ニ阿部〔房次郎〕氏へ書状も出シ夜二入

り／欧文電報出ス

一 浅田英太郎〔博文堂従業員〕ヨリ葉書到来

〔18頁〕

一 夜二入り林肇〔長〕民氏来訪種々相談有之／候ニ付俄ニ明朝八時廿五

分發ニテ天津へ／出張仕候事ニ取究メ常盤ホテルニも電／話ス

一 不在中王国維先生御尋子〔ネ〕被下明日午後／一時ニ在宅ト申置きニ

付明日者〔ハ〕内藤〔湖南〕先生分／依頼之書物一冊ヲ田中氏〔扶桑

館の）／ニ代理届ケルヲニ相頼ミ置候

〔十一月〕三日晴

一 午前八時廿五分發ニテ天津へ出發ス

一 汽車中ニ顔世清氏ト同車ス

一 常盤ホテルニ着昨夕欧文電報快信

〔19頁〕

ニテ扶桑館へ送り候よし直ニ同館へ再び当地へ／送ル電話ス

一 羅〔振玉〕先生二面会難一桂外一卷題字相願置〔候〕

一 唐拓啓法寺碑帖拜見美二珍品

一 種々名品撮影之御話し深切ニ致し／呉れラレ候〔内府之品〕

一 林長民氏二面会桑田〔豐藏〕氏之病中ヨリ逝去／迄之話しハ致し候処

同〔林長民〕氏非常ニ／感謝被致候

一 阿部〔房次郎〕氏へ抵当ニテ梁楷之卷外一卷の相／談アリ明日迄考へルト申シ分レル

一 〔博文堂〕本店々之封書一 東京幽香子〔原田ゆか子カ〕ヨリ封書一

〔20頁〕

松本弘氏ハ封書一到来披見ス

一 夜ニ入り〔博文堂〕本店へ封書出ス

一 扶桑館ヨリ快信。ニテ欧文電報午後八時／半着直ニ披見然ル小川簡齋先生ヨリ／金美人軸買入ルトの電信ニ付誠ニ大安心／仕候

一 直ニ小川〔簡齋〕氏へ来ル十三日之長沙丸ニテ持帰／ルト封書ル〔二〕て御答へ仕置き候

一 〔博文堂〕本店へも安心之書状出し置候

〔十一月〕 四日 曇寒氣強シ

※消文の翻刻〔20—21頁〕

〔20頁〕

一 午前八時廿五分発ニテ天津へ参ル

一 〃〔午前〕十一時三十分過常盤ホテルニ着昨又快信。

〔欄外に、〕「顔世清氏ト／不斗同乗ス」とあり。以下21頁にかけて×印の消痕あり

〔21頁〕

ニテ欧文電信北京へ送り候よし直ニ電話ル〔に〕て／送り戻シヲ扶桑館申シ置ク

一 〔原田〕興家及び〔原田〕悟朗之封書ト花屋敷〔原田家本邸、松茂山莊〕美枝子〔油谷美子、〕「美枝子」はその通称〕ト松／

本弘氏之四通着致し居り一覽ス

一 午後一時羅〔振玉〕先生訪問ス

一 午後三時林長民氏訪問ス桑田〔豐藏〕氏死去／迄之転〔顛〕末カ／梁〔楷〕。李〔公麟〕両卷抵当之話しニ及ぶ

一 夜八時半北京ハ欧文電報着一覽致し候／処小川為次郎〔簡齋〕氏ヨリ金ノ美人幅買入ルトの／電信ニテ大安心致し候／寒氣非常厳敷久々ニテ入湯湯番人深切／二入湯中ユヅユラくれ吞ミ伏セリ申候

〔欄外に、〕「小川〔簡齋〕氏へ返書／出ス／〔博文堂〕本店へも返書／出ス／二重二日誌書き／候ニ付消ス」とあり

〔22頁〕

一 午前四時羅〔振玉〕先生訪問金ノ美人軸約束ス

一 同〔羅振玉〕邸ニ五男〔羅福頤〕之結婚式明日有之候よしニテ／門之飾り其他之美麗ニ驚き申候

一 午前十一時半林長民氏ヲ尋子〔ネ〕梁〔楷〕。李〔公麟〕両卷之担保約束究ル

一 午前早天ニ北京ハ快信便ニテ阿部房次郎氏／ヨリ欧文電〔報〕之返信参ル

一 阿部〔房次郎〕氏へ書留書状出ス来ル〔十一月〕九日迄不在との欧〔文〕／電〔報〕ニ付書留出シ置ク也

一 午後三時五十五分発ニテ北京へ戻ル〔北京雨降り〕

一 三菱公司参事之市吉〔徴夫〕氏ハ明五日夜之招

〔23頁〕

待状参り居ル

一 夜十時頃中根〔斉〕氏来訪十二時過帰ル

〔十一月〕 五日 雨降り寒強シ

一 昨夜ヨリ雨降りニテ寒氣厳敷早朝ニ顔〔世清〕氏相／尋子〔ネ〕候処天津長〔張〕勲氏之葬儀ニ参列何レモ／地〔知〕名之方々不在無抱中

根〔齊〕氏ト寺沢〔鹿之助〕氏へ参り／書画ヲ見ル名品更ニなし菊池榮ヲ訪フ／是亦天津へ参り不在

一 富晋書社へ尋子〔ネ〕主人ニも面会心能ク都テ相分り／明日多少其入金之事ヲ約シ戻ル

一 午飯ヲ支那料理ニテ食シ帰館ス

一 午後七時ヨリ市吉〔徴夫〕氏宅之招待ニ参ル

〔24頁〕

流石者〔は〕三菱公司之支店長宅ニテ見事之邸宅／ニ候来会者ハ桑田尽〔豊〕藏氏ニ関係之日支人十名／大内暢三 原田梁二郎〔興業銀行員〕／劉驥業 江先生〔欄外に、「江天鐸」とあり〕三菱之鈴木〔二字アキ〕永持徳一／自分外式名〔支那人〕何れも早稲田〔大学〕出身之方ニテ御座候大内〔暢三〕氏ハ十時発ニテ上海へ／出発食後江〔天鐸〕先生ヨリ弘法大師〔空海〕之書之／話シ始メ注文モ受ケ夜十一時過原田〔梁二郎〕氏自働／車ニテ扶桑館迄雨中送り被下候

〔十一月〕六日曇天（午後ヨリ天気）

一 午前二修〔済煦〕先生呼びヨセ出版物直〔値〕段其他中根〔齊〕氏立会／相談究メル

〔25頁〕

一 王国維先生来訪同氏〔王国維〕ト修〔済煦〕氏来ル／八日夜是非招待致し度ト被申承諾ス

一 右済セ中根〔齊〕氏ト共ニ諸所へ参ル名品更ニ無之

一 富晋書社ヨリ主人ト弟兩人ニテ金貳百円持参受／取り食事及其居之案内も有之候へ共／日程定り居り候ニ付断ル

〔十一月〕八日晴天（以下、十一月七日と十一月八日の記事が前後する）

一 修〔済煦〕先生書譜拾冊ト羅〔振玉〕先生之啓法寺碑／種板持参書譜代六十四円支払

一 午前十時之約ニテ劉〔驥業〕先生へ訪問之処又々時／刻馬車ニテ相後

れ氣之毒ニも自働車準備／相居り直ニ中根〔齊〕氏ト三名ニテ袁励準先生訪

〔26頁〕

問再び書之名品七点拝観中根〔齊〕氏も実ニ感服／ニ御座候

一同〔袁励準〕氏へ〔倪〕元璐之四宝小品持参致し候（進呈）

一 正午過三名ニテ〔四字アキ〕ニテ洋食ヲ午飯ニス

一 午後二時陳〔宝琛〕大人訪問拝顔し左之品々拝観ス

一 惲南田〔寿平〕松図軸 紙本 普通

一 曹知白〔雲西〕水墨山水紙本 能品

一 李竹懶〔日華〕墨画山水紙本 ヲ〔能品〕

一 王石谷〔翬〕淡彩山水同〔紙本〕 名品

一 王蒙山水〔変り物〕全〔紙本〕 神品／至正五年〔一三四五〕秋月

黄鶴山樵王叔明画トアリ

〔27頁〕

一 唐人画雪景絹本 実ニ見事ニ御座候／王維カト被存候

一 黄太〔大〕癡〔公望〕水墨紙本 神品／内府之藏品寸法ト云ひ申分無之候

一 王石谷〔翬〕淡彩秋景 紙本山水 神品／内府藏実ニ神品筆紙難見候

一 黄鶴山樵〔王蒙〕二尺巾紙本 名品／井泉清集トハ篆書落款／至正

廿七年〔一三六七〕暮春黄鶴山人王子蒙〔王蒙〕為士文／画于呉門

兵舎／外ニ董其昌賛アリ

一 宋人合璧画冊絹 真偽不明

〔28頁〕

乾隆帝題／郭忠恕 燕文貴 趙士雷 趙伯駒／李唐策〔李唐の誤記〕林椿杏〔林椿の誤記〕 李嵩 陳居中／以上八枚〔台北故宫博物院

所蔵「宋人合璧画冊」と見られる。「李唐策」の画題は「李唐策杖探梅」、「林椿杏」の画題は「林椿杏花春鳥」であり、原田大観は画人と画題の一字を混同して記録してしまったのだろう。」

一 陸包山〔治〕 蔡羽合璧図冊 普通

一 宋人牋牘冊 紙 神品／内府蔵 内府審定真蹟神品御筆

一 王時敏青綠山水卷 内府蔵紙本神品〔卷〕／戊申〔康熙七年、一六六八〕清和月画於昆陵舟次王時敏書〔時〕七／十有七蹟乾隆帝王樹

〔澍〕ノ書／題簽 王時敏晴嵐暖翠図神品御筆

〔欄外に〕、「王時敏卷／ハ陳〔宝琛〕大人／七十賀之／節宣統帝／ヨリ下賜品」とあり

〔29頁〕

一 王石谷〔翬〕雪図真蹟 紙本 神品卷／癸巳〔康熙五二年、一七一三〕六月耕煙散人王翬并識

〔欄外に〕、「目断」とあり

一 文寿承〔彭〕先生花卉真蹟 普通品 紙本卷／徐青藤〔渭〕題字アリ

一 朱銳赤壁図大卷 紙品〔紙本カ〕 名品／北宋朱銳画赤壁図趙間追和坡仙詞真／蹟ノ大字之書アリ〔金〕正大五年〔一二二八〕重九前

一日書／於玉堂之署趙秉文

右拾六点拝見茶葉之饗応ヲ受ケル／拝観中修〔済煦〕氏来ル中根〔斉〕氏眼福喜び無限／右之内王蒙ト黄子久〔公望〕玉〔王〕石谷〔翬〕秋景ノ三幅者〔は〕感服仕候

〔30頁〕

一 午後四時過暇乞ひ致し中根〔斉〕氏之案内ニテ／蔡金台先生之品一覽夜二入ル名品なし

一 一先扶桑館ニ戻り即刻王国維先生ト修〔済煦〕先生／之夜七時ヨリ之招待参ル／陳〔宝琛〕大人 宝熙 劉驥業 金紹城〔城〕／外ニ支那

人 王〔国維〕先生 修〔済煦〕先生ト自分之／八名誠ニ好ミ之食物ヲ一々注文スル極親密／之馳走ニ候王〔国維〕先生ヨリ卷ニ御揮毫／被下紀念ニ頂戴スル

〔十一月〕七日晴天〔欄外に〕、「七日ヲ前後致シ／候ニ付此の処ニ書ス」とあり

一 呉法イ先生之紹介ニテ同氏〔呉法イ〕中根〔斉〕氏懋山／大人ニ面会本人七十八歳老大人実ニ家屋

〔31頁〕

其他之有り様実ニ清貧ニテ村夫子之大学／者ト存候同〔懋山大人〕先生之昔ニ裁判之判決例／之著書沢山有之候趣キニ御座候

一 呉法イ先生今書壹枚頂戴ス同〔呉法イ〕氏宅ニテ／書画沢山見ル何れも感心不致候

一 寺沢〔鹿之助〕氏へ参り書画ト毛皮ヲ見ル感心セズ

一 菊池〔栄〕氏ヲ訪フ不在

一 午後七時金紹城〔城〕劉驥業両氏之招待／会へ参ル知名之日、支、西洋ノ三ヶ国人士四名／ニテーブルニテ芳沢〔謙吉〕公使ト陳〔宝琛〕太傅ト自分芳／沢〔謙吉〕公使之隣〔隣〕リニ池部〔政次〕書記官誠ニ到れり尽セリ之／饗応第二之テーブルニ西洋人ジョンソン〔溥儀の帝師のジョンストンカ〕英国人

〔32頁〕

今西〔龍〕博士、沢村〔専太郎〕文学士、市吉〔徴夫〕氏ヲ始メ知名之方々／数〔名〕の脱字カ／顔世清氏も参会ス席上芳沢〔謙吉〕公使ガ／〔以下朱罝あり〕原田〔大観〕君ハ実ニ正直之実業家ニ付同〔原田大観〕氏之義〔儀〕ハ僕〔芳沢謙吉〕／ガ保証スルト被仰下実ニ難有事ニ御座候是れ偏ニ／犬養木堂閣下之御引上ト喜申候〔夜十一時帰館ス〕

一 本日午後二時ヨリ大切之顔世清氏へ参ル会见／之約束ニ付先方中根

〔齊〕氏へ極秘密ニ致しくれとの／義〔儀〕ニ付一人ニテ参り朱〔紹濂〕氏之通訳ニテ阿部〔房次郎〕氏ヨリ／之電報ヲ見セ四五〇〇〇円ヲ主張致し候へ共承諾／不致洋銀五〇〇〇〇元ト申シ候処ヲ遂ニ二時ヨリ／六時半迄相掛り銀四五〇〇〇元ニテ承諾被致候／実ニ直〔値〕段ト掛引キ強り候

〔33頁〕

一〔十一月〕八日朝阿部〔房次郎〕氏へ欧文電報発ス同〔阿部房次郎〕氏ハ〔十一月〕九日／迄不在之電報ニ付明九日中ニ天津迄引上ケ／返電ヲ待つ心得日幣ト洋銀之差ニ付実ニ心痛／乍併四點トモ何れも神品ニ付日本へ将来致し度候／

〔十一月〕九日晴天

一今西〔龍〕博士へ御暇乞ニ参ル
一芳沢〔謙吉〕公使ヨリ八日夜御招待相蒙り候へバ先約アリ／御断り仕置候午前九時御暇乞ニ参り候も人ニ／拜謁致し候
一扶桑館之諸弘ヲ濟セ午後四時廿五分發ニテ／天津へ出發ノ際岩田〔秀則〕写真師参り洛陽仏像／写真百枚定価八拾円之趣キ八掛ケ六十四円尔〔に〕て

〔34頁〕

買入レ売捌方依頼ヲ受候

一本日午後正二時金紹城〔城〕画伯劉〔驥業〕先生之通訳ニテ暇乞ニ参り土産ニ画中九友壺冊進呈同〔金城〕氏／之画山水三枚ト花卉式枚預り金貳百円渡し置／ク也劉〔驥業〕先生へ東京〔関東大〕震災之写真帖三冊／進呈ス

一〔十一月〕九日夜七時廿五分天津駅へ着直ニ常盤／ホテルニ入ル

一阿部房次郎氏ハ欧文電報参り居り候ニ付／直ニ欧文〔電報〕ニテ返電ス〔博文堂〕本店及其他ヨリ書状参り／居ル夜九時四十分頃ヨリ羅〔振玉〕先生訪問ス

〔十一月〕十日晴天

一午前十時正金銀行へ参り金参阡円也

〔35頁〕

受取ル一週間日歩〔四錢之割高価〕八円四十錢／支払
一羅〔振玉〕先生へ倪雲林〔瓚〕出ス金トシテ前納ス日本／へ持帰り売れ不申節ハ戻ス約

一中国勸業株式会社へ参り吳天民氏ト王氏ニ／面会三宅〔三郎〕氏少々相待ち居り候内ニ起床面会／未ダ全快ニ到ラズ

一午後三時過夏先生訪問四宝一冊進呈不相／変流暢ナル日本語ニテ大震〔関東大震災〕の見舞ヲ申され候／約束李成山水巻写真壺部進呈見事ニ／出来致し候トテ大喜ビニ御座候

一夕刻帰館吳天民先生ヨリ明午後一時茶菓之招待状参り承諾ス

〔欄外に、〕〔十一月〕十日夜羅〔振玉〕先生／一切預ケ品／受取明朝ヨリ／北京へ出張之趣／キニ候、一 夜ニ入り阿部〔房次郎〕氏ヨリ／五万八阡円也為換／欧文ニテ着、一 十日夜北京顔世清／氏へ支那電信出ス／十二日早朝来レト〕とあり

〔36頁〕

〔十一月〕十一日晴天日曜日

一林長民先生ニ面会致ス然ルニ確約致シ置き候／阿部〔房次郎〕氏ヨリ借用之金円之義〔儀〕ニ付期限ニ至り／本人〔林〔長民〕〕承諾之価格ニテ売約云々之ケ〔箇〕条ヲ／入レ度ト俄ニ意外之事ヲ申出シ本人モ目下之／究境ニテハ一ケ年以後返済六ツケ敷ト存ジ右様／之義〔儀〕ヲ申出シ候ニ付ケ〔箇〕様之不都合之条件／ハ阿部〔房次郎〕氏へ対シ申出ル事一切出来不申金円モ／昨夜欧電為換ニテ着致し居り実ニ不都合千／万ト嚴談致し候へ共是非条件承諾致し／呉れト申シ候ニ付一先中止ト決シ別レル

一午後四時冷牟田〔清〕氏ヲ訪問明日之受取金之義〔儀〕／ニ付御打合

セ相願候処御深切ニ万事被仰下

〔欄外に〕「本日正午前／〔博文堂〕本店々三巻／先日遣り候／分ト三宅〔三郎〕氏／見舞品届／ク直ニ右三巻／羅〔振玉〕氏へ届／ケ三宅〔三郎〕氏へ／も見舞品／届ケル」とあり

〔37頁〕

ブドウ酒等御出シ被下日暮令夫人〔冷牟田トヨ〕帰宅過日汽車／中ニ御面会致し置き候為メニ誠ニ御鄭重ニ被成／下書幅等拝見若御夫婦ニ付書画之主〔趣〕味無／之夫人之実父〔長島与兵衛〕相州金沢ニ居住之よし／立て尊父之姓名承り候へ共田舎ものト被申姓名／ヲ申され須〔ず〕只々支那之書画者〔は〕不申及器物其他／好マレ候よし

一 扶桑館へ電話ニテ中根〔斉〕氏ヲ呼ニ遣し候処行違ひ／ニ午後四時廿五分発ニテ来津〔天津〕被下候よし好都合

一 夜八時中根〔斉〕氏来津〔天津〕弥々明日顔〔世清〕氏之取引打合セス／銀日々高価ニ相成候ニ付大イニ日幣弗之違ひ余程ニ相成心痛無限一 午後一時呉天民先生茶会ニ参り大谷氏其他日本

〔38頁〕

〔人〕一名ト三宅〔三郎〕氏ニテ談笑（一時間半）何分明日之手配有之暇乞／之際当夏北京ニテ呉〔天民〕氏紹介之某支那人相／見へ面会名前記憶セズ

一 〔衍字〕一 同夜北京朱〔紹濂〕氏へ電話ス

一 顔〔世清〕氏ヨリ快信ニテ明十二日午後一時着之書状着

〔欄外に〕「同夜芳沢〔謙吉〕公使方へ／弥々十三日帰朝之／電話ス」とあり

〔十一月〕十二日晴天

一 午前十時過朝鮮銀行へ為替受取ニ参ルニ付大金／ニ付自動車ヲ頼ミ中根〔斉〕氏トホテル之店員ヲ同／乗受取ルニ参ル一先五万八仟円也受取壹万／式仟円ハ預ケ置き四万六仟円受取り帰ル／天津ハ白中〔昼〕

ピストル等ヲ向ケ強盜有之／よしニ付冷牟田〔清〕支配人ヨリ銀行之自働車ニテ御帰／り相成様ト深切ニ被仰下幸ひ自働車ニテ参り

〔39頁〕

候事答へ置き候同地油断少もなり不申候／中根〔斉〕氏別室ニ泊り居り被下候

一 午後〇時過顔世清氏ト朱〔紹濂〕氏相見直ニ談判致／シ候処日金ト銀之相違甚ダ數数時間談判之結果／今朝之九十四円廿錢ニテ計算日本金ヲ以仕〔支〕払候事／ニ決し直ニ顔〔世清〕氏之案内ニテ露西惡〔亜〕料理ニ案内／致され食事後同〔顔世清〕氏別邸へ参り四点受取候処／領収証者〔は〕支那習慣トシテ出サスト被申候ニ付立て断〔談〕／判致し簡短之もの受取雪降り出ス午後三時五十五／分ニテ両〔顔世清、朱紹濂〕氏者〔は〕北京ニ戻ル際雪中ホテル迄送りくれ候／本日之正金銀行相場ニ換算スレバ三仟余百円不足／ニ相成朝鮮銀行相場ニテも式仟數万〔衍字〕百円之違ひ／ヲ壹仟七百余円之差ヲ仕〔支〕払承諾被致候

〔欄外に〕「同文阿部〔房次郎〕氏へ／取引済ミノ林〔長民〕氏／中止之打電ス／同夜封書も同氏へ／出ス」

〔40頁〕

実ニ筆舌ニ難尽苦心致し候

一 芳沢〔謙吉〕氏今東京犬養〔木堂〕家届ケ之信玄袋入り一個／藤井〔啓之助厦門〕領事夫人〔清子〕御持参被下中ノ自分方へ反物／土産トシテ芳沢〔謙吉〕氏今頂戴ス

一 中根〔斉〕氏へも同夜謝儀致し同〔中根斉〕氏之立換計／算も済ス同〔中根斉〕氏先般来少も御氣ニ入り候品も無之ト実ニ心配被致候へ其後來又々／御世話ニ相成ルト申シ百円御礼致し置き候

一 顔〔世清〕氏之四点者〔は〕実ニ神品名品ニ付日本へ将来阿部／〔房次郎〕氏之珍藏ト相成候事ハ無限之喜びニ御座候

一 本日雪降りニ付長沙丸荷物陸揚ゲ六ツケ敷十四日午前七時ニ相成候趣き

一 本日顔〔世清〕氏ト取引きニ参り候内々中根〔斉〕氏ヲ

〔41頁〕

朝鮮銀行へ参り一万二阡円之為換頼ミ置候

一 林長民氏ヨリ揮毫見事之七枚ト犬養〔木堂〕高田両先生へ之書状届ク

一同宿之戸部氏へ林〔長民〕氏之書式枚進呈ス大喜ビ／無限ニ候

〔十一月〕十三日晴天

一 中根〔斉〕氏ハ午前九時十分発ニテ北京ニ戻ラレ候

一 今西〔龍〕博士 王国維 劉〔驥業〕先生 扶桑館 明石幸橘／〔博文堂〕本店 原田幽香子〔ゆか子カ〕等へ書状出ス／〔博文堂〕本店

今封書参ル明朝出發ニ付〔原田〕悟朗上京見合／セ打電ス

一 常盤ホテル仕〔支〕払一切相済セ呉天民氏上野〔寿〕吉田／房次郎羅

〔振玉〕先生宅等へ暇乞ニ参ル夕刻上野〔寿〕氏

〔42頁〕

来訪夕食後長沙丸ニ乗船久々〔に〕テユツク／リ就眠ス〔夜ニ入り

呉天民先生ト王氏船迄来訪〕／長沙丸船長〔宮本〕事務長其他各

員深切ニ被成下本宅へ／戻候り候心得致し候

〔欄外に、〕同夜船迄／戸部氏御送り／ニ御出被下／餞別頂戴ス〕とあり〕

〔十一月〕十四日晴天

一 午前九時ニ相成水不足之為メニ明朝迄出帆延期／ニ相成候ニ付上陸常

盤〔ホテル〕へ立ヨリ候処何方カ／ラカ書状参り居り船ハ出帆ト心得

即刻〔博文堂〕本店へ戻シ／候よし

一 上野〔寿〕氏訪問同〔上野寿〕氏案内ニテ折目〔民夫〕齒科医師へ／

参齒ヲ一本貰〔抜〕キ治療ヲ受ケ候大イニ／心持ち宜敷相成候

一 呉〔天民〕氏へ暇乞ニ参ル

〔43頁〕

一 羅〔振玉〕氏へ明朝迄船延行ニ付本日老大人〔羅振玉〕北京ヨリ／御

帰り相成候へバ湯雨生〔貽汾〕冊御届ケ被下度ト申置ケ也

一 楠正一氏訪問毛皮之帽子求メ度案内頼ム東京／そばヲ食し度ト申シ案

内ヲ受ケ却て馳走ニ相成／ルザルソバカモナンバントモ東京通り

一同〔楠正一〕氏之案内ニテ仏蘭西英吉利租界へ帽子求メニ／参ル安価

之品なく遂ニ支那見世〔店〕ニテ意外之／安価之品求メ候

一同〔楠正一〕氏方ヘ夕刻戻り夫人ニモ面会夫人〔楠小千代〕の妹子／

本年廿才之方之写真一覽ス

一 夕食ニ何レカへ案内スルト被仰候へ共立て断り／候処夕刻寒風強キ処

ヲ愛児同伴船迄〔欄外に、〕午後三時過ニ／羅君美〔福成〕氏／湯雨生〔貽汾〕冊／届ケ被下候由〕とあり〕

〔44頁〕

一 御見送り被下候同〔楠正一〕氏ハ数回ホテルへ御尋子〔ネ〕被下／御

深切感心致し候

一 船ニテ夕食ヲ済セ早ク就眠致し候処夜十時過／羅君美〔福成〕先生深

切ニ訪問ボーイ其他も伏セリ／居り茶も差出し不申毎例ナガラ／同

〔羅福成〕氏之懇情深ク謝シ申候

〔十一月〕十五日晴天

一 午前九時十五分弥々出帆春之如き天気ニ御座候

一 タークー〔大沽〕出口ニテ潮待チ之節栗及柿ブドウ／船ニテ沢山売り

参り候ニ付銀之残り丈ケハ求メル

一 乗船日本人男子若手何レモ天津在留ト大阪／綿商岩田氏子息ト自分五

名夫人二名子供／女子一名洋人二名支那人一名海上平穩

〔45頁〕

〔十一月〕十六日晴天

一 〔博文堂〕本店ヨリ無線電信来ル海上平穩

〔十一月〕十七日晴天

一 〔博文堂〕本店へ一九七〔日〕モジ〔門司〕エツ〔着〕ク返電ス（無線）

〔十一月〕十八日晴天

一 阿部房次郎氏御影之本邸へ〔十一月〕廿日ニ神戸／着之無線電信ヲ発ス

〔欄外に、〕〔十一月〕十日ニ〔原田〕悟朗殿／上京之趣き〕とあり〕

〔78頁〕

大正十三年（一九二四）一月十一日改メ／大正十二年（一九二三）六月分 羅振玉先生

一 項孔彰〔聖謨〕山水 四六〇

一 宋牧仲〔犖〕山水 四四〇

一 祝枝山〔允明〕字冊 三五〇

一 羅兩峯〔聘〕冊 二五〇

一 黃石齋〔道周〕画松卷 二三〇〇

合計 金參阡八百円也／手数引參阡〇四拾円也

一 内 小林〔写真製版所〕運賃 拾八円卅五錢

一 内 顧愷之写真式組 五十円

合計金六十八円也／右之処、金參千円也 兩度ニ送ル

〔79頁〕

差引金貳拾八円三十五錢過剩

外ニ

一 金四阡円也〔大正十二年（一九二三）九月一日／電信為換送金〕

金四阡貳拾八円卅五錢預ケ

大正十二年（一九二三）十月分

一 貳阡七百元 金美人幅

一 一百円 乾隆竹冊

一 參阡円 倪雲林〔瓊〕軸（山水）

内金參阡円 十月十日ニ天津ニテ渡ス／内金七百元 十月下回送金

一 八阡五百円 啓法寺碑／

内金五阡円也十二月十二日送金

〔80頁〕

合計金壹万四阡三百円也

其内 壹阡五百七十一円六十五錢

内 四十六円四十三錢小林〔写真館〕之運賃

一 三百円也 董文敏〔其昌〕山水代

其内

一 金壹阡八百廿五円貳錢／大正十三年（一九二四）一月廿二日送金済

注

（1）単に博文堂という場合は油谷博文堂、博文堂合資会社、博文堂等の通称として用いることにしたい。

（2）博文堂の大阪移転前に關しては、稲岡勝「原田博文堂の事業失墜と再興の歩み―北原九十郎、油谷達・原田兄弟のこと―」（『書物出版と社会変容』第二〇号、二〇一六、七九―一四頁）参照。

（3）博文堂の大阪移転後に關しては、拙稿「大正末期における美術商・博文堂の出版活動と書画周旋について―原田大観の訪中前後を中心―」（『書学書道史研究』第三五号、二〇二五、七一―八四頁）参照。

（4）前掲注（3）参照。

附記

本稿は行田市郷土博物館における調査に基づく成果である。記して同館に御礼申し上げたい。本稿はJSPS科研費二四K〇三四九二の助成を受けたものである。

Shohei SHIMODA

From the end of the Meiji era onwards, Harada Taikan (the second generation Shozaemon (2代目庄左衛門), 1855-1938) was the de facto manager of Hakubundo (博文堂), a renowned collotype art publisher and art dealer. 《Harada Taikan (原田大観)'s China Travel Diary》 is a record of a visit to China made immediately after the Great Kanto Earthquake, and is currently housed at Gyoda City Museum. The diary begins with business diary to China and accounting record of this visit.

In 1923, Harada Taikan visited China at least twice. During his first visit to China (June 8th to July 8th), he brought along Harada Okie (原田興家, Harada Taikan's fourth son, 1891-?) to conduct preliminary research. And his second visit to China (from October 21st to November 18th) was postponed by one month due to the Great Kanto Earthquake. This is the record of the latter and this gives us how he behaved and experienced the trend in China.

These two visits to China were extremely important in Hakubundo's publishing activities and intermediating and selling Chinese calligraphy and paintings. In other words, Hakubundo entered into business partnership with the Chinese bookstore Fujinshushe (富晋書社) and Yanguangshi (延光室), and Hakubundo's collotype publications began to be exported to China. As a result, the name of the publishing company Hakubundo became widely known in mainland China. Furthermore, by purchasing and selling masterpieces of Chinese calligraphy and painting, Harada Taikan raised funds in order to rebuild Hakubundo after the Great Kanto Earthquake, and he won the trust of loyal vassals who served the Qing Dynasty imperial court, which possessed the most famous collection of Chinese calligraphy, paintings, and inscriptions, and also gained new local collaborators. After his visit to China, Hakubundo acquired many more masterpieces of calligraphy and paintings, and began to dominate the Chinese calligraphy and paintings market.

In this way, this diary not only sheds light on Hakubundo's intermediating and selling Chinese calligraphy and paintings and inscriptions, from mid-Taisho era onwards, but is also considered to be an important document in the history of modern collection of paintings and calligraphy and inscriptions, which will also help clarify the actual situation of the influx of Chinese paintings and calligraphy and inscriptions into Japan.

